Twinkle 東京女子医科大学学術リポジトリ
Tokyo Women's Medical University - Information & Knowledge Database
https://twinkle.repo.nii.ac.jp

外来における継続看護を実践するための看護記録の必要性:文献レビュー

メタデータ	言語: jpn
	出版者:
	公開日: 2021-06-17
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 廣川, 友香, 池田, 真理
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://doi.org/10.20780/00032774

〔資 料〕

外来における継続看護を実践するための看護記録の必要性：文献レビュー

廣川友香*　池田真理**

LITERATURE REVIEW ON THE NECESSITY OF NURSING RECORDS FOR PRACTICING CONTINUOUS NURSING IN THE AMBULATORY DEPARTMENT

Yuka HIROKAWA *　Mari IKEDA **

キーワード：外来看護、外来看護記録、継続看護
Key words：ambulatory nursing, ambulatory nursing records, continuous nursing

Ⅰ．背　景

近年、医療・看護を取り巻く社会的状況として、人口減少、超高齢化社会といった人口構造の急速な変化、慢性疾患・生活習慣病の増加による疾病構造の変化、医療費の増大による社会保障制度の財政危機がある。このような社会状況のなかで医療現場では、DPC（診断群分類）に基づいた定額支払い制度の導入、病床機能分化の推進、平均在院日数の短縮化、在宅医療への移行・推進がなされ、病院完結型医療から地域完結型医療に変化している。

地域完結型医療の推進と医療技術の進歩に伴い、外来医療も変化している。

在院日数短縮に伴う周手術期看護への影響として多くの病棟看護管理者が、術後患者のセルフケア不足や退院に際して術後の不安が残ることを認識している（高島ら , 2009) という報告があるように、外来医療では、入院中に治療が完結していないことで病状に不安を抱えたまま在宅療養となる患者や在宅での医療的ケアが必要な患者が増加している（金子ら , 2000; 吉村ら , 2002; 吉川ら , 2010）。また、外来において手術、侵襲性の高い検査、化学療法などを実施するようになっている。さらに、地域完結型医療は、医療の機能分化と連携を促進する医療提供体制であるため、病院やかかりつけ医、介護施設、訪問看護ステーションなど多様な療養の場で多様な専門職が介入する。このため院内外を問わず、患者に必要なケアが継続される、継ぎ目のない医療・看護の提供が求められている。患者が入退院を繰り返しながら在宅療養を維持するため、関連する多職種と連携し、双方向の情報提供で情報を共有していく必要がある（泉宗， 2016; 角田 , 2016）。継続看護に必要な情報が共有され、必要な看護を提供するために外来看護実践の可視化が重要であるといえる。「看護記録に関する指針」において看護記録とは、あらゆる場で看護実践を行うすべての看護職の看護実践の一連の過程を記録したものであると定義され、その目的は「看護実践を証明する」、「看護実践の継続性と一貫性を担保する」、「看護実践の評価及び質の向上を図る」ことである（日本看護協会 , 2018）。つまり、看護記録は、看護師の思考過程と実践した看護を証明する証拠である（高橋 , 2019）。地域完結型医療においては、看護実践の可視化による看護の継続性・一貫性を担保するための外来看護記録が求められている。よって本研究は、外来における継続看護を実践するための看護記録の動向と課題を文献レビューにより明らかにする。

*東京女子医科大学大学院看護学研究科（Tokyo Women's Medical University, Graduate School of Nursing）
東京女子医科大学病院 (Tokyo Women's Medical University Hospital)
**東京女子医科大学看護学部（Tokyo Women's Medical University, School of Nursing）

II．目　的

外来における継続看護を実践するための看護記録の動向と課題を文献レビューにより、明らかにすることを目的とする。

III．研究方法

1．対象文献の選定

医学中央雑誌 Web 版（Ver. 5）をデータベースとして用いた。医中誌Webで、シソーラス用語から（外来 /AL）and（看護記録 /Th or 看護記録 /AL）、（外来看護 /Th or 外来看護 /AL）and（看護記録 /Th or 看護記録 /AL）、外来看護記録 /AL をキーワードとし、原著論文、全年検索を条件として文献検索をした（最終 2020 年 7 月実施）。抽出された文献の表題・抄録・本文を一読し、外来看護記録に関する調査・研究でないもの、外来看護記録の紹介に留まるもの、看護外来を対象としているものを除外した。この中から、患者が施設内（外来から病棟、病棟から外来等）で移動する際の看護記録の有効性について明らかにした文献は、本研究の目的とは一致しないため除外した。また、救急外来、外来手術、内視鏡検査、血液透析室、化学療法室等での看護記録を対象とした研究は、外来患者の受療目的が他の外来受診患者とは異なるため除外した。

2．分析方法

対象文献を、外来における継続看護を実践するための看護記録の視点で精読し、関連する記述を収集した。収集した記述を類似した内容ごとにカテゴリー化、集計した。

IV．結　果

1．文献検索の結果

文献検索の結果、（外来 /AL）and（看護記録 /Th or 看護記録 /AL）では、276 件、（外来看護 /Th or 外来看護 /AL）and（看護記録 /Th or 看護記録 /AL）では、163 件、外来看護記録 /AL では 40 件の文献が抽出された。重複も含めて 277 件の文献から除外基準にあたる文献を除外し、23 件の文献を対象とした（図 1 ）。

2．研究論文の概要

対象文献は、全て 1 施設の外来看護記録を対象としていた。研究方法は、実践報告が 10 件、質問紙調査が 7 件、事例検討が 3 件、KJ 法を用いた質的研究が 1 件、量的研究が 2 件であった（表 1 ）。対象文献を、外来における継続看護を実践するための看護記録の視点で分析した結果、「外来看護記録の必要性の認識」、「外来看護記録による外来看護ケアへの効果」、「外来看護記録による外来看護師への効

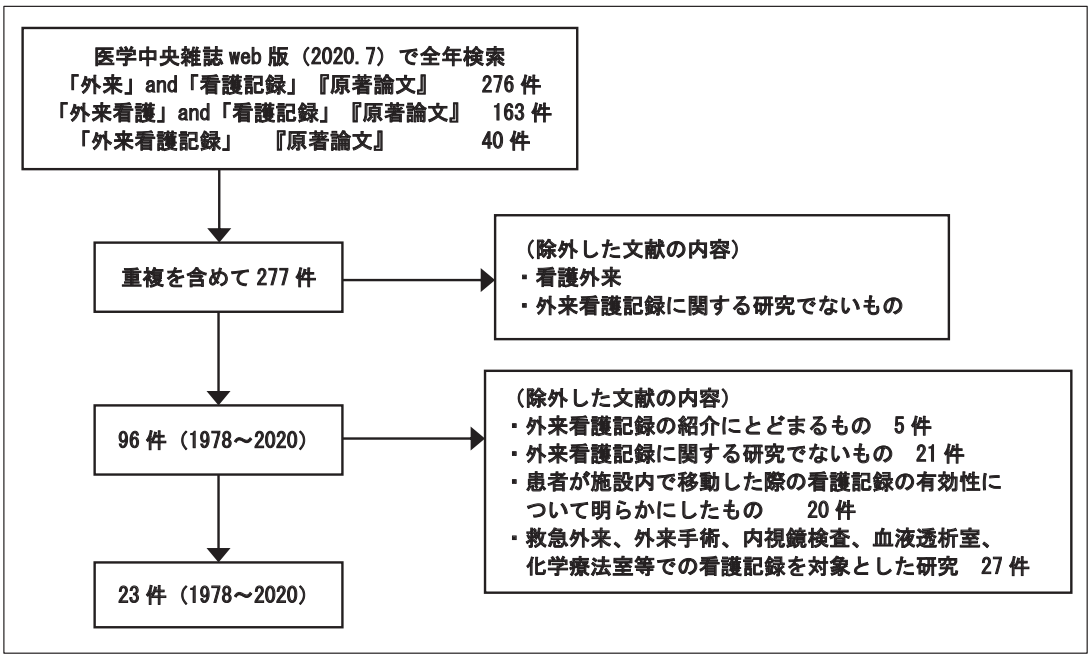

図 1．対象文献の選定プロセス

果」、「外来看護記録の記載を妨げている要因」に分類された。

3．外来看護記録の必要性の認識について

外来看護師を対象とした、外来看護記録の必要性の認識を調査している文献は６件あり、外来看護師は外来看護記録の必要性を認識していると述べられていた（深木ら , 1998; 飛田ら , 1998; 安倍ら , 1999; 山田ら , 2004; 仲條ら , 2008; 朝日ら , 2016）。その理由を「情報が共有できる」、「看護行為が形に残せる」と回答していた（仲條ら , 2008）。また、外来看護記録により、外来看護の充実や質の向上を期待していた（深木ら , 1998）。しかし、その記載方法は、内容に応じて「診療録に記入」、「メモ用紙

表1.　外来における看護記録に関する研究論文

	著者	発行年	表題，掲載雑誌名，号もしくは巻，頁	研究方法
1	小野寺幸子,金井チヨノ, 遠藤英子	1978	外来における看護記録の試み-その中間報告-，看護実践の科学，3(12)，3-16.	事例検討
2	久保田恵子，幕内紀美子, 伊藤由美子，他4名	1990	外来での個別的看護を目指した看護記録の活用方法の検討．日本医科大学付属4病院看護研究発表会集録(13～14)，16-23.	実践報告
3	中島房子，佐藤しづ代, 永井育美，他2名	1990	外来における看護記録の試み 一事例を通し入院時連絡表の記載まで，日本医科大学付属4病院看護研究発表会集録(13～14)，91-105.	事例検討
4	高田穂積，御園生妙子, 小峰智子，他3名	1990	外来看護記録を通して継続看護を考える(その1) 一年間の記録の実態調査から，日本看護学会集録，21回(地域看護)，40-43.	質問紙調査
5	鬼武幸子，古沢依久子	1991	外来における糖尿病患者の継続看護の必要性を求めて 外来看護記録様式の作用と活用，市立釧路総合病院医学雑誌，3(1)，57-59.	実践報告
6	東京都老人医療センター 外来看護婦一同	1991	外来における看護記録の導入を試みて，東京都老人医療センター看護研究集録(17)，46-55.	実践報告
7	金子淳子，山本智恵子, 石田幸子，他1名	1992	外来診療録に看護記録を導入して 情報の共有で看護援助の円滑化を目指す，佐世保市立総合病院医学業績集，18，121-122.	事例検討
8	東京都老人医療センター 外来看護婦一同	1993	外来における継続看護を目指して 看護記録用紙の作成と改善に取り組んで，東京都老人医療センター看護研究集録・教育活動報告(19)，23-31.	実践報告
9	宝住由香，瀬戸ひとみ, 宮下洋子，他4名	1994	外来看護記録用紙に立体像モデルを取り入れた効果 糖尿病患者の継続的生活指導より，日本看護学会集録，25回(地域看護)，70-72.	量的研究
10	名鉄病院看護部	1996	外来看護記録についての一考察．名鉄医報，38，63-65.	実践報告
11	深木智与，有光澄子, 片岡千砂，他6名	1998	当院における外来患者看護記録の問題点を考える　KJ法を使って，国立高知病院医学雑誌，6～7，53-57.	質的研究
12	近藤優子，加藤智子, 山下則子，他13名	1998	外来看護記録への取り組み　意識調査を通して．名古屋市立大学病院看護研究集録(1997)，19-23.	実践報告
13	飛田チエ子,五十嵐穂恵子, 岸本三枝，他1名	1998	外来看護記録の取り組み　外来看護基礎情報用紙の作成，印刷局医報，44，69-74.	実践報告
14	安倍てるみ，梅村晋子, 大洞聡子，他3名	1999	外来における看護記録の充実と意識向上を目指して，名鉄医報,41,77-80.	質問紙調査
15	河合昌栄，泉敬子, 山田正子，他3名	1999	外来看護の継続性に対する看護婦の認識度の変化　外来看護記録を通して，石川県立中央病院医学誌，21，75-78.	量的研究
16	近藤優子，伊藤江美, 小黒智恵子，他4名	1999	外来における効果的な記録方法の検討　フォーカスチャーティングを実施して，名古屋市立大学病院看護研究集録(1998)，21-25.	実践報告
17	下地知恵子，与儀明美, 橋本あゆみ，他2名	2001	外来看護記録の改善　患者の情報を共有するための基準作成，沖縄赤十字病院医学雑誌，12(1)，37-40.	実践報告
18	山田幸子，村山かほる, 佐野百合子，他1名	2004	当院の外来における看護記録についての実態調査，しょうけん：浜松労災病院学術年報，2003，148-151.	質問紙調査
19	仲條由美，宮嶋さつき, 今井志保，他3名	2008	外来看護師の看護記録に対する意識の変化　意識を高める働きかけを行って，日本看護学会論文集：看護管理(38)，136-138.	質問紙調査
20	千葉理恵子,青島江里子	2009	情報を共有できる外来看護記録への取り組み，しょうけん：浜松労災病院学術年報，2008，69-72.	質問紙調査
21	朝日恵美，望月聖子, 小林美枝	2016	外来における「継続看護」実践への取り組み，日本看護学会論文集：看護管理，(46)，388-390.	質問紙調査
22	長岡瑠美,槇美里	2018	【情報の共有と看護の継続性】外来における情報共有の一考察 記録表を作成し活用した取り組みを振り返って，看護実践の科学，43(10)，39-44.	実践報告
23	市原紀子，岡本邦子, 山口弥生，他1名	2020	外来看護記録の充実を目指した現状の把握～外来でのケアプラン立案の実態調査～，砂川市立病院医学雑誌，（33），2020，41-44.	質問紙調査

に書き診療録に貼る」であった（山田ら , 2004）という報告や必要と感じている人は多いが充分に記録されていない（安倍ら , 1999）という報告もあった。

4．外来看護記録による外来看護ケアへの効果について

外来看護記録が《情報の共有化》（13 件）、《看護の継続性》（11 件）、《統一性》（5 件）、《個別性》（4 件）、《患者との信頼関係の構築》（3 件）、《看護ケアの評価》（4 件）、《患者の安心感》（2 件）、《指導効果の向上》（1 件）につながると述べられていた。

統一した外来看護記録を作成し、外来全体で看護記録の活用を試みた結果、看護師間で患者の情報交換が密となり、《情報の共有化》や同じレベルで看護ができたという《統一性》、《個別性》のある看護ができる基盤になりえたと報告されていた（近藤ら , 1998）。

外来でのより良い援助を目指し、看護記録を導入した結果、入退院を繰り返している患者に対し、看護記録により、外来担当看護師が交代したが、継続的な看護ができたという《看護の継続性》が報告されていた（東京都老人医療センター外来看護婦一同 , 1991）。

糖尿病患者に継続看護を提供するため外来看護記録を導入した研究では、記録を残すことにより、客観的な《看護ケアの評価》ができ、看護の質の充実に歩み進めたと報告されていた（鬼武ら , 1991）。

慢性疾患患者に対し外来看護記録を導入し、夜間に救急外来を受診した際に患者への処置がすばやく落ち着いてできるようになり、日常の外来での看護ケアの提供ができるようになった。それにより、患者から「看護婦さんとは、初対面なのに」という、自分のことを理解してもらえたという安心した表情が伺えた。外来看護記録を導入したことで初期の適切な対応や患者を理解した上での看護活動ができるため、患者とのラポートの成立につながったという、看護記録が《患者の安心感》につながり、《患者との信頼関係の構築》ができたと報告されていた（金子ら , 1992）。

立体像モデルを取り入れた外来看護情報収集用紙を活用して、糖尿病患者に継続的に生活指導を行った研究で、患者の問題点が捉えやすく、従来の方法より短時間の関わりで生活指導が開始でき、HbA1c が有意に低下し、より効果的な指導ができたという、外来看護記録による《指導効果の向上》について述べられていた（宝住ら , 1994）。

5．外来看護記録による外来看護師への効果について

外来看護記録により、《看護師の積極性》（9 件）、《看護師の安心感》（2 件）、《看護師の喜び》（2 件）につながると述べられていた。

外来看護記録を通して外来看護の継続性に対する外来看護師の認識の変化の調査では、記録前から基本的な患者とのかかわりはできていた。情報収集をすることによって患者とのかかわりをより深く持とうという《積極性》の意識や記録を行うことで次の看護に活かそうという《継続性》の意識が高まった。このように看護師の患者に対するかかわりが変化し、外来の継続性に対する認識が高まったと報告されていた（河合ら , 1999）。

外来看護記録の定着にむけて今後の方向性を検討した、外来看護師を対象にした質問紙調査で、看護記録を書いてよかった点、記録を読んでよかった点は、「患者に話し掛けやすかった」という《看護師の安心感》につながる意見があったと報告されていた（千葉ら , 2009）。

糖尿病患者に継続看護を提供するため外来看護記録を導入した研究で、外来看護師が繁雑な外来業務の中で、責任をもって日常生活援助を行うことは、看護しているという実感と喜びといった《看護師の喜び》が得られ、それが外来看護の充実につながったと報告されていた（鬼武ら , 1991）。

6．外来看護記録の記載を妨げている要因について

《時間の無さ》（11 件）、《記録に不慣れ》（5 件）、《職場環境》（5 件）、《知識不足》（4 件）、《必要性の認識不足》（3 件）、《忙しさ》（2 件）、《看護体制の不備》（2 件）、《人員不足》（1 件）が述べられていた。

外来看護師を対象にした看護記録に対するイメージの調査で、外来看護記録を書くことへの不安として、「時間的余裕がない」、「勉強不足」、「記録に不慣れ」、「病態によっては記録の必要性に疑問がある」といった、《時間の無さ》、《知識不足》、《記録に不慣れ》、《必要性の認識不足》のイメージがあった。外来看護記録を書くことを阻害している因子には、時間的な問題、場所的問題、業務上の問題、勤務体制、患者との関係、患者把握、勉強不足、気持ちの問題、外来による特殊性といった、《時間の無さ》、《職場環境》、《看護体制の不備》、

《知識不足》があると報告されていた（深木ら，1998）。

外来看護師を対象にした、看護記録に対する意識向上を目的とした勉強会等の働きかけ開始前の意識調査では、記録ができない理由を問われると「時間がない」、「後で書こうとするが忘れる」、「記録がなくても困らない」、「継続的に活用されない」という、《時間の無さ》、《必要性の認識不足》が報告されていた。また、勉強会開催後は、記録件数は増加したが、外来看護において「記録がなくても支障がない」という《必要性の認識不足》に変化はなかったと報告されていた（仲條ら , 2008）。

外来看護記録の定着にむけて今後の方向性を検討した、外来看護師を対象にした質問紙調査で、記録を書かなかった理由は「記録に慣れていないためうまく書けない」、「記録する時間がない」、「形式が決まってないため書きにくい」、「書くのに時間がかかる」という、《記録に不慣れ》、《時間の無さ》、《知識不足》が報告されていた。読まなかった理由は、「読む時間がなかった」が一番多く、診療補助業務や雑用に追われ、カルテの内容を十分に読んでいる時間がないといった《職場環境》による《時間の無さ》が報告されていた（千葉ら , 2009）。

外来看護記録の継続を妨げている要因を明らかにした研究では、外来看護記録の約半数が中断されていた。中断した理由は、業務多忙が最も多く、6 割以上であったと、《忙しさ》が報告されていた（高田ら，1990）。

今回の文献検索で最も古い文献である、外来患者の日常生活援助において外来看護記録の必要性を感じ、記録用紙を作成、導入後の調査で、外来看護記録の実用の課題として、場所がない、時間がないという《職場環境》、《時間の無さ》が報告され、外来看護師は《人員不足》、《看護体制の不備》により外来看護記録の活用が困難であると感じていると報告されていた（小野寺ら，1978）。

V．考　察

1．研究の動向について

外来看護記録についての文献は、全て 1 施設で調査した研究であった。1 施設での調査の理由として、紙カルテの場合、その施設が独自に作成した記録用紙であること、電子カルテであっても多数の業者があること、電子カルテ機能の活用範囲や運用等は施設によって様々であることが考えられる。

2．外来看護記録の必要性と課題について

1）外来看護記録の必要性について

外来看護記録を行うことで、外来看護ケアへの効果として、情報の共有化、看護の継続性、統一性、個別性、患者との信頼関係の構築、看護ケアの評価、患者の安心感につながると述べられていた。また、外来看護師への効果として、看護師の積極性、看護師の安心感、看護師の喜びにつながると述べられていた。

吉田ら（2016）は、「外来では、担当看護師が常時同じ患者に対応することが困難なため情報共有できる記録の活用が継続した支援につながる」と述べているように、看護記録による情報共有が外来看護ケアの継続性や個別性などにつながっていることが伺える。外来医療では、患者が病院で過ごす時間は日常生活のごく一部であり、外来において看護師が患者とかかわれる時間も限られている。このような状況において外来看護記録は、外来看護ケアの質の向上、患者 - 看護師関係の確立につながると考えられた。また、患者 - 看護師関係の確立が、外来看護師の看護実践効果の実感や積極性につながった（大津ら , 2007）という報告もあり、外来看護記録による外来看護師への効果も示されている。

外来看護記録が、外来看護ケアへの効果や外来看護師の自己効力感の向上に影響していると述べられていたことから、外来における継続看護の実践には、外来看護記録が必要であることが示唆された。

2）外来看護記録の記載を妨げている要因について

外来看護記録の記載を妨げている要因として、時間の無さ、記録に不慣れ、職場環境、忙しさ、知識不足、必要性の認識不足、看護体制の不備、人員不足が述べられていた。

梅田ら（2000）は、外来看護業務の約 4 割が「事務業務」にあてられ、全体で最も多く時間を費やしていた。一方で、看護師が重要と認識している「療養相談・指導」は、約 1 割にすぎなかったと報告している。石井ら（2017）は、「外来看護が機能していない要因として、外来看護の看護師配置基準が 1948 年から 30 対 1 のままであること、加えて 7 対 1 入院基本料の新設により外来看護師が不足したこと、また外来看護師は夜勤が困難な

どの理由で配置されるため療養相談や指導ができるといった能力を考慮した看護師配置にはなっていないことが考えられる」と述べている。このことから外来看護師の配置基準や配置状況、業務内容といった外来看護の特徴が、外来看護記録が定着しにくい要因と関連していることが伺えた。また、山本ら（2017）は、外来看護師が、患者が期待する看護ケアが実践できない背景要因として「実践ができない環境や体制になってしまっている」と報告している。大津ら（2009）も「外来看護師が専門性を発揮するためには環境整備が必要」と述べている。

外来看護記録の記載を妨げている要因は、外来看護の特徴と関連していることが伺え、課題であることが示唆された。外来看護記録の定着には、外来看護記録の記載に影響すると考えられる看護師の意識や知識・スキルといった個人要因と時間や業務内容など環境要因を明確にする必要があると考える。

今回の文献レビューを通して、1 施設での調査の結果からという限界はあるが、それぞれの外来看護記録から、外来看護記録が外来看護ケアの質の向上や外来看護師の自己効力感の向上に影響していること、外来看護記録の記載を妨げている要因が、外来看護の特徴と関連していることをうかがい知ることができた。外来看護記録の現状と課題を明らかにするために、媒体や記録のフォーマット、様式、運用といった施設毎の特徴ではなく、どの施設でも共通した視点で、複数の施設にわたる調査研究が必要であると考える。

Ⅵ. 結　論

外来における継続看護を実践するための看護記録の動向と課題について文献レビューを行った。その結果、複数の医療機関を対象として行った研究は、なかった。外来看護記録は、外来看護ケアの質の向上や外来看護師の自己効力感の向上につながっている、一方で外来看護の特徴が、外来看護記録が定着しにくい要因と関連していることが示唆された。

本論文の一部は、第 23 回日本看護管理学会学術集会で発表した。

利益相反：本研究における利益相反は存在しない。

引用文献

安倍てるみ , 梅村晋子 , 大洞聡子 , 他（1999）. 外来における看護記録の充実と意識向上を目指して . 名鉄医報 , 41, 77-80.

朝日恵美 , 望月聖子 , 小林美枝（2016）. 外来における「継続看護」実践への取り組み . 日本看護学会論文集 : 看護管理 , 46, 388-390.

千葉理恵子 , 青島江里子（2009）. 情報を共有できる外来看護記録への取り組み . しょうけん : 浜松労災病院学術年報 , 2008, 69-72.

深木智与 , 有光澄子 , 片岡千砂 , 他（1998）. 当院における外来患者看護記録の問題点を考える KJ 法を使って . 国立高知病院医学雑誌 , 6-7, 53-57.

宝住由香 , 瀬戸ひとみ , 宮下洋子 , 他（1994）. 外来看護記録用紙に立体像モデルを取り入れた効果 糖尿病患者の継続的生活指導より . 日本看護学会集録 , 25 回（地域看護）, 70-72.

石井圭子 , 島田恵（2017）. 外来患者の主体的な受療継続を支援する専門性の高い外来看護師の実践 . 日本保健科学学会誌 , 20（2）, 53-62.

泉宗美恵（2016）. 「その人らしく」を支える 連携で実現する質の高い退院支援マネジメント , 多施設・多職種との連携をつくる！地域包括ケア時代の看看連携実践事例集 . ナーシングビジネス 2016 年夏季増刊 , 132-134.

角田直枝（2016）. いま求められる看看連携の姿とは , 多施設・多職種との連携をつくる！地域包括ケア時代の看看連携実践事例集 . ナーシングビジネス 2016 年夏季増刊 , 13-15.

金子淳子 , 山本智恵子 , 石田幸子 , 他（1992）. 外来診療録に看護記録を導入して 情報の共有で看護援助の円滑化を目指す . 佐世保市立総合病院医学業績集 , 18, 121-122.

金子みね子 , 荒木康子 , 上拾石みえ子 , 他（2000）. 外来看護提供システムの構築に関する研究 1 －外来通院患者の在宅療養上のニーズに関する実態調査－ . 日本看護管理学会誌 , 4（1）, 110-112.

河合昌栄 , 泉敬子 , 山田正子 , 他（1999）. 外来看護の継続性に対する看護婦の認識度の変化　外来看護記録を通して . 石川県立中央病院医学誌 , 21, 75-78.

近藤優子 , 加藤智子 , 山下則子 , 他（1998）. 外来看護記録への取り組み　意識調査を通して . 名古屋市立大学病院看護研究集録 , 1997, 19-23.

仲條由美 , 宮嶋さつき , 今井志保 , 他（2008）. 外来看護師の看護記録に対する意識の変化　意識を高める働きかけを行って . 日本看護学会論文集 : 看護管理 , 38, 136-138.

日本看護協会（2018）. 看護記録に関する指針 . 東京 , 日本看護協会 .
https://www.nurse.or.jp/home/publication/pdf/guideline/nursing_record.pdf　（最終閲覧日 2021 年 1 月 19 日）

大津佐智江 , 草間智子（2007）. 変化する外来看護システム 2 施設の取り組みから . 看護教育 , 48（7）, 602-607.

大津佐智江 , 佐伯圭一郎 , 草間朋子（2009）. 外来看護の質の向上のための環境システム整備に関する調査 . 看護科学研究 , 8, 21-28.

鬼武幸子 , 古沢依久子（1991）. 外来における糖尿病患者の継続看護の必要性を求めて 外来看護記録様式の作用と活用 . 市立釧路総合病院医学雑誌 , 3（1）, 57-59.

小野寺幸子 , 金井チヨノ , 遠藤英子（1978）. 外来における看護記録の試み－その中間報告－ . 看護実践の科学 , 3（12）, 3-16.

高田穂積 , 御園生妙子 , 小峰智子 , 他（1990）. 外来看護記録を通して継続看護を考える（その 1）　一年間の記録の実態調査から . 日本看護学会集録 , 21 回（地域看護）, 40-43.

高橋智美（2019）. 看護記録の質向上を目指したアクションプログラム　アクションプログラムの概要 . 臨床看護記録 , 29（1）, 61-65.

高島尚美 , 五木田和枝（2009）. 在院日数短縮に伴う消化器外科系病棟における周手術期看護の現状と課題－全国調査による病棟看護管理者の認識－ . 日本クリティカル学会誌 , 5（2）, 60-68.

飛田チエ子 , 五十嵐穂恵子 , 岸本三枝 , 他（1998）. 外来看護記録の取り組み　外来看護基礎情報用紙の作成 . 印刷局医報 , 44, 69-74.

東京都老人医療センター外来看護婦一同（1991）. 外来における看護記録の導入を試みて . 東京都老人医療センター看護研究集録 , 17, 46-55.

梅田光代 , 永村節子 , 水野谷悦子 , 他（2000）. 外来看護提供システムの構築に関する研究 2 －外来業務量と看護婦が重要だと認識している内容－ . 日本看護管理学会誌 , 4（1）, 112-114.

山田幸子 , 村山かほる , 佐野百合子 , 他（2004）. 当院の外来における看護記録についての実態調査 . しょうけん : 浜松労災病院学術年報 , 2003, 148-151.

山本克英 , 亀谷文子 , 清水弘美 , 他（2017）. 外来満足度調査からみた外来看護の課題 . 神戸百年記念病院雑誌 , 30, 43-52.

吉田ミツエ , 青砥浩子 , 西山幸江（2016）. 在宅療養支援に対する外来看護師の役割認識 . 日本農村医学会雑誌 , 64（5）, 871-876.

吉川照美 , 中尾三千代 , 山野多恵子 , 他（2010）. 外来患者の在宅療養上のニーズに関する調査 . 香川労災病院雑誌 , 16, 95-99.

吉村繁子 , 山﨑昭子（2002）. 「患者支援センター」を中心とした地域連携システム . 看護展望 , 27（2）, 115-121.